

10月30日(土)・大会1日目 14:50~16:20 (組織論レビュー【8】会場) (90分)

●組織論レビュー セッション【8】

「組織行動論における組織の様相:『組織の喪失』の再検討」

* 砂口文兵 (梶山女学園大学 現代マネジメント学部 講師)

貴島耕平 (関西学院大学 商学部 助教)

* 代表報告者

[概要]

組織行動論(organizational behavior: OB)は、“組織における”人間の行動を論じることを自らのアイデンティティとしてきた。ところが、“組織における”人間の行動を論じてきた OB に対して、組織への関心が薄れてきたとの警鐘が鳴らされてきた。つまり、組織行動研究のアイデンティティの共通見解が存在してきた一方で、そのアイデンティティが喪失しつつあるという、一つのパラドキシカルな状況が指摘されてきたのである。このパラドキシカルな状況に関して、本セッションでは、組織を巡る組織行動研究の問題点がいかに議論されてきたか、次にその問題点に対してどのような方略が示されてきたかを具体的なトピックをもとに論じる。そして最後に、今後の組織行動研究の方向性について言及する。

[参加者へのメッセージ]

本セッションでは、組織行動研究における組織の様相を検討していくが、このことは「OB の研究者が組織をどのように捉えてきたのか」を改めて考えてみるという試みでもある。OB は“組織における”人間行動を対象とすることを共通見解としつつも、調査のフィールドやコンテキスト変数など、実に多種多様な組織の捉え方がとられてきた。そこで本セッションでは、研究者が理論や概念を考案する際にも、組織の捉え方の違いが作用することを踏まえ、OB における組織の捉え方を振り返る。そして、“組織における人間行動”という現象を、研究者はいかに捉えるべきかという点にまで踏み込みつつ、組織行動論の現在知(地)を描写していきたい。